

ぶどう通信

第 223 号

令和元年 7 月 1 日

日本の四季という制度はすでに崩壊しているのかもしれない、と思うこともあります。毎年、毎月「異常気象」という言葉を耳にします。「平年並み」の「平年」が何かもすでに分からなくなっていますし。

そして今年も夏が来ました。個人的には寒いよりは暑い方がずっといいのですが、まあ、大変ですね。僕は広島で育っているので夏に快適なイメージがありませんでした。ご存知の方もいると思いますが、瀬戸内気候の特徴で「風」があります。夏場の夕方、風が全くなくなってしまいうのです。学校から帰ってきた夕方、夕日が落ちる前のジトツとした不快なイ

メージが今でも残っています。上京してから割と緑に恵まれた環境で暮らしていたので夏が好きになりました。ところが最近感じるのは、アスファルトの照り返しとエアコンの排出する熱風。熱中症は危ないからとどんどんエアコンをかけましようというのはどこか負のスパイラルに陥っている感じがします。新宿では今でもどこかで高層ビル建築が行われていますが、実は時代に逆行して

いるのではないかと思います。エアコンがなければ生きられないなんて変ですね。

さて、先日、ある

お店を見つけました。高級ランドセル専門店。一瞬「嘘！」と思い見返し



てしまいました。自分の感覚で言うと、カバン屋さんの一商品。それが専門店とは！シヨーウィンドウにもい

くつかの革ランドセルが飾ってありました。当たり前ですが、ランドセルと言えば小学生。彼らはこの高級感がわかってるのかなあ？おじいさん、おばあさんがかわいい孫のために買うのだろうけど。そこでふと思いました。ランドセルを買ってあげるのだったら、ちゃんと革のメンテナンスまで教えてあげればいいのではないかと。しっかりクリームを塗ってあげてピカピカに仕上げるところまで教えてあげれば、愛着もわくし、長持ちもするし、物を大切にすることも教えられるのではないかと。実は革製品を磨くのがマイブーム。

